

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

「これでいいのか!? 大阪の教育」 府民がつどいシンポジウム 子ども中心の教育実践がすすめられる学校を

教育・文化府民会議 「府民学習会」

10月8日、子どもと教育・文化を守る大阪府民会議は、「これでいいのか?大阪の教育」をテーマに大阪府教育会館においてシンポジウムを開催し、全体で50人、大障教からは3人が参加しました。

「教育こわし」の実態を広く知らせよう

子どもと教育・文化を守る大阪府民会議代表の藤木邦顕さんは開会あいさつで、安倍首相は10月開会の臨時国会で憲法改正の自民党案を出すと宣言し、9条の2に自衛隊を明記し、緊急事態条項を盛り込むなど、自衛隊を強化し、アメリカとともに海外



大阪の教育について考え合う参加者

大阪の学校の現在

シンポジウムでは、小学校・中学校・高校の教員と保護者がパネリストとしてそれぞれの立場で報告しました。

摂津市の小学校教員は、産休や育休の代替講師が見つからず、「教育に穴」があく実態

や、新学習指導要領の実施に向けて英語や道徳の研修を学校として受けることになり、多忙化を助長している実態を報告しました。このままでは

子ども一人ひとりに向き合う時間がなく、子ども中心の教育実践ができなくなる」と語りました。

東大阪市の中学校教員は、授業や定期考査、提出物など日々の子どもたちのがんばりにもとづいてつけた生徒の評

定が、年1回のチャレンジテストの成績で変えられる不合理な実態を告発しました。また、今年には地震や台風の影響で実施日が変更され、修学旅行が2度も変更されるなど、

学校が混乱した状況を報告し、『チャレンジテストは廃止を』というのが現場の声だ」と語りました。

府立高校の教員は、府教委の高校つづし計画の不当性を指摘し、廃止が決定された長

野北高校は地域の中小企業が

ら、「これまで多くの長野北高校の卒業生が入社し、がんばってくれてい

る。なくなると困る」と進路担当者のやりとりを紹介しました。高校つづし反対の運動に参加している卒業生の姿に触れ、生徒の成長の場である高校をつぶさないでほしい」と語りまし

た。

小学生と中学生の保護者は、チャレンジテストの結果によって学校順位が決められ学校の順位を低く置かれたため、子どもの高校入試に影響しとた

め、子どもと話や、小学2年のクラスの産休代替講師が見つからず、教頭などが交替で授業に入るもの時間によって自習になったり、宿題が出されな

いなど、学習が遅れている実態を紹介しました。先生も生徒たちもしめつけられず、子どもがのびのび育ちあえる教育制度にしてほしい」と話しました。

フロアからの発言では、山内副委員長が特別支援教育の流れの中で、支援学校や支援学級の児童生徒が激増し、子どもたちが人権侵害ともいえる状況

におかれていることを告発しました。「府立支援学校に通う児童生徒が今後10年間に1400人増えるという推計を府教委自ら出しながら600人程度の新校整備しかしない。教室をつぶすのではなく、全員を受け入れられる学校を整備すべきだ。維新の会の教育こわしを許さず、府民にこれらの問題を広く知らせていこう」と訴えました。



来年10月からの消費税率10%への引き上げについて、安倍首相は、予定通り実行したいと断言しています。10%の痛みを和らげるためと称し、食料品などを税率8%に据え置く、軽減税率導入にも言及しました。

経団連の会長も、10%に引き上げたとしても、ヨーロッパなど他国に比べると日本の消費税率は低いとして、さらなる引き上げを主張していません。しかし、食料品にかかる消費税率で見ると、イギリス0%・ドイツ7%・フランス5.5%と、現在の日本の8%より低いのが現実です。他国より低い」という主張は事実と反します。

また、増税による消費減少への対策として、住宅ローン減税の拡充、自動車関連税の軽減などがちらいついています。こうした動きに、自動車メーカーも飛びつきました。日本自動車工業会自工会の会長を務めるトヨタ自動車の社長は、消費税の増税を口実に、自動車関係税の減税を求めています。現在、年5万1千円するトヨタクラウンの自動車税を、軽自動車税並みに年1万800円まで引き下げると言っています。

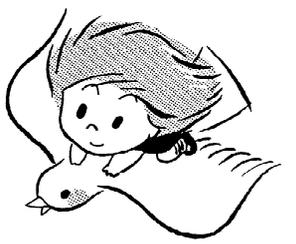
こんな厚かましいことが言えるのも力ネの力です。自民党の政治資金の受け皿団体、国民政治協会は、2016年に自工会から8千400万円、トヨタからは6千440万円もの巨額献金を受けています。

低所得者ほど負担が重い消費税を引き上げれば、自動車や住宅の税金を減税しても、多くの国民にはほとんど恩恵がありません。本当に国民の負担を減らすつもりなら、消費税の増税は中止し、経済の立て直しや歳入・歳出の見直しなど、消費税に頼らない政策が必要です。

平和とは夢や希望を持てる未来があること!

2018 原水禁世界大会

8月4日〜6日、原水爆禁止2018世界大会が広島で開催され、大障教から初参加の青年2人を含めた5人が参加しました。被爆から73年目の夏、西日本豪雨災害の復興がまだ進まない中、被災地に希望を届けられるよう、何としても成功させたいという熱い思いで開催された大会でした。



葉の重みが胸にささりまし

た。夜は全教主催の「教職員

平和のつどい」に参加し、広

島の先生が焼いてくれたお

好み焼きを囲んで、全国の

先生方と交流しました。

3日目は8時から平和記

念公園で行われた平和祈念

式に参加しました。広島市

長の式辞・平和宣言、広島県

知事あいさつ、国連事務総

長あいさつ(代読)のいずれ

も、核兵器禁止条約発効へ

の流れや対話と協調路線に

ついて述べられたことに対

し、安倍首相は、核軍縮のす

すめ方について各国の考え

方の違いが顕在化している

などと述べ、唯一の戦争被

爆国である首相であるにも

かわらず、核兵器禁止条

約について触れることはあ

りませんでした。閉会総会

は国連・政府代表、政党など

からのあいさつ、広島決議

「広島からのよびかけ」の採

択後、「青い空は」の大合唱

で感動的に閉会しました。

大変暑い広島でしたが、

それ以上に熱い、核兵器廃

絶への決意と次の世代に語

り継ぐ強い思いを、見て聞

いて肌で感じる事ができ

た、充実した有意義な3日

間でした。どこの会場でも

言われていたことは、「こ

1日目の開会総会は全国、海外か

ら5000人が参加しました。広島

市長、被爆者、国連関係者のあいさつ

に続き、「総がかり行動実行委員会」

代表は連帯のあいさつで、「平和運動

は分裂の時代から共闘の時代へと新

しいステージに立っている」と述べ

ました。夜は「世界の若者とならな

う」の集会に参加しました。海外の若

者からの報告の後、フロアーの高校

生の発言、「僕たちが被爆体験を直接

聞くことができる最後の世代。次の

世代に伝えていく責任がある」に、会

場は拍手でつまれました。



大障教から5人参加しました

原水爆禁止世界大会 (広島)に参加して

光陽支援学校分会 樋口真弓

私の平和学習の経験は、小学校で「はだしのゲン」の映画を観たこと、大人になって沖縄へ行ったことです。そして今回が初めての広島、初めての原爆ドーム。体験者の声を聴くのも初めてです。

今回の参加でなによりも良かったのは、生の声を聞き、その地を踏みしめ、触れて、広島を訪れた人種や国籍を越える人々も一緒に同じ空気を感じられたことです。原爆や核は、何度でも考えるべき大きなテーマです。それ以外にもとりわけ2つ、心の底まで響いたことがあります。

1つは、戦時下(更には戦前から)の教育です。分科会でもそれ以外の場所でも、体験者が熱く語られていたのが「教育」でした。大人は、教育者は、どこまで信じ、何を知り、教育として子どもたちに語りかけたのでしょうか。どうして原爆が作られている時代に竹槍を持たせて教育したのでしょうか。沖縄でもそうです。何を思い、子どもに手榴弾を持たせる様なことになってしまったのでしょうか。これらの事態は今の時代には考えられないことですが、その「あり得ない、考えられない」ことが事実として起きてしまったのです。私も同じ事をしていたかもしれません。今ある平和が、「当たり前」ではないこと、獲得してきた平和であること、そしてこれからどうやって伝えていくのか、1つ1つを大事に考えていきたいです。

2つ目は、日本による占領です。原爆のことと、日本の占領のこととを、別問題かの様に切り離して考えてしまっていました。原爆が落とされた時には「連れてこられた」人も居て、今でも手帳交付などで差が生じていることを知り、原爆の問題から日本の占領問題も同時に考えることができました。語り部の方の力を借りる事で、遠く海を越えた、昔の事が、「今」「目の前」の事だと気づくことができました。占領地のことを知るのももちろんですが、ただそこだけの問題ではなく、強制連行された人々が日本に居て、二世である子どもに対しても冷たい目が向けられていた、心を傷つけていた事実を、真に受け止めていかなければならないのだと、ようやく気づくことができました。

語る事に苦しみを感じる人。事実を受け止める事に苦しみを感じる人。様々ありますが、それでもやはり、伝えていかなければならない、『知らない』とは言えない、色々な方法で事実を事実として存続させていく努力が必要なのだと思います。

「戦争は終わっていない」という言葉があります。原爆の広範囲にわたる、今もなお続いている身体的精神的苦しみを知り、受け止めることも、この言葉の意味を知る術であると思います。戦争とは何か、平和とは何か、問い続けていきたいです。

2日目の分科会は「ヒバクシャの話を知りたい」という青年の希望で「青年のひろば」の被爆者訪問企画に参加しました。10歳で被爆された女性は「戦争中は学校で『兵隊さんはお国のために頑張っている』と言われ、すべてのことを我慢していた。被爆後、屋根の

真つ白になった亡骸を見て、何も思わなくなっていた」と話されました。また、地域で活動されている方は「戦争や原爆で死んだ人は1人もいません。みんな殺されたのです」と言われ、その言

ないバラックで暮らし、学校もないので一日中焼野原で過ごした。うじがわき

「広島からのよびかけ」の採択後、「青い空は」の大合唱で感動的に閉会しました。

たいと思いました。(大障教書記長 久保知子)